



「論語に学ぶ会」30周年記念講演

演題：“現代に蘇る孔子珠玉の教え”

一、孔子は救世主であった。

それを知っていたのは、子貢と孫の子思。

二、国家存立の三原則。

「食を足し、兵を足し、民之を信にす」

(論語：顔淵第十二)

三、孔子が唱えた“ゴールデン・ルール”

「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」

(論語：顔淵第十二、衛靈公第十五)

「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」

(論語：雍也第六)

四、孔子とイエス・キリスト、そっくりな二人。

仁とは与えっ放しの愛のこと。



高野大造

(湯島聖堂斯文会大講堂)

(2022年10月10日)



記録・編集 東京塾 葛西誠

はじめに

それでは波動を整えましょう。軽く目を閉じて、背筋をピンと伸ばして、肩の力を抜いて、顎を引いて、お臍でゆっくりと腹式呼吸をやって下さい。

はい、目を開けて。当会が設立したのは1992年2月、新潟市古町八番町、じゅこう庵という居酒屋の2階を本拠地として22名の同志と共に始まりました。以来、丁度30年。私が入院中の6年間も含め良くここまで守っていただきました。

この間、大切な同志を12名失いましたが、今は新潟3塾、山形2塾、東京2塾、合わせて100名くらいの会員でやっております。30年もやって来ますと、リーマンショック、9.11同時多発テロ、中越地震、中越沖地震、3.11東日本大地震と津波、そして三年前からの新型コロナ、今年に入ってからロシアのウクライナ侵攻と、休む間もなく様々な災難が襲ってきましたが、皆様は例会の学びを通して、肉体生命を失うことをそんなに恐れることはなくなったのではないのでしょうか。私が口を酸っぱくして述べてきた、人間存在の実相を知ってからは。

論語に学ぶ会の設立の目的は『学真行道』、つまり、論語の孔子の教えから、真理を学び道を行ずる、真理を実践するというものです。これは30年経った今でも変わっておりません。むしろ論語を教養として身に付けるというより、真理を学ぶ事の方が強くなるものなのですね。

孔子の歴史

今日は公開講座ということもあり、論語に初めて触れられる方もいらっしゃるでしょうから一般論から話してみたいと思います。

孔子は、今から2500年前、中国に実在の人物で、父は下級武士孔紃(70才)、母は巫女の顔徴在(17才)。この時代の巫女は一生独身で過ごさねばいけませんでしたから、母の顔徴在は孔紃に手込めにされたのではないかと思います。そこで生まれたのが孔丘、ですから孔子は今で言う私生児になるのでしょうか。

孔子には、腹違いの姉九人、兄一人(孔孟皮)がいた。母、顔徴在は子供が出来たことから、公式の占いは禁じられていたものの、生活をしなければ成りませんから、闇で民間の占いを続けました。

孔丘は子供心に母の神秘的な占い方法を見て育ちました。正式な占い方法は、巫^ふ釈^{しゃく}史^しという3人一組で行います。巫とは霊を取り憑かせる役、いわゆる霊能者、釈^{しゃく}とは霊の喋る言葉を翻訳する係、外国語を喋ったり古代語を喋りますからそれを正確に現代語に訳す係。史^しというのは、それを記録すると共に、その掛かった霊が本物かどうかを審^ま神^に者^わする、審判する役です。

母、顔徴在はこれを一人で努めたわけです。孔子を育てるために。苦勞が祟って、孔子15歳の元服を迎える年に亡くなっています。16歳の時に、父、孔紇の墓を探り当て母と合祀しています。

この頃の孔子は学問しながら、何で生活していたかという、今で言う葬儀屋をやっ稼いでいました。腹違いの兄（孔孟皮）は足が悪かったため、兄の世話もしていたようであり、あとは晩年に述懐したごとく、

「吾十有五にして学に志し」・「三十にして立ち」「四十にして惑わず」・「五十にして天命を知り」「六十にして耳^{したが}順い」「七十にして心^{のりこ}の欲する所に従えども矩を踰えず」となるわけです。

孔子の教え

孔子の教えはどのようなものであったかといえば、『徳』、と『中庸』に代表されるでしょう。徳という字は面白いのですよ。

徳 → 德 → 德 → 徳

左側が徳の原字です。彳は一字で「てき」と読みます。行人偏ではない。行動を表します。直はまっすぐ、心、三つからなります。それが変化します。そして徳になったわけです。

所謂、素直な心で、素直に行う事を徳といいます。

中庸とは、「不偏^{ふへん}不倚^{ふい}、偏りがなく、倚^よりかからず、過ぎる事無く、不足することなく、過不及のない事ですが、もっと具体的に言いますと

徳とは、仁義礼知信の5常、五徳といってもいいです。

その徳を具体的に云うとどうなるか？

「人を思いやるに素直であれ！」 ⇒ 仁
「正義を貫くに素直であれ！」 ⇒ 義
「礼を尽くすに素直であれ！」 ⇒ 礼
「知を磨くに素直であれ！」 ⇒ 知
「人を信じるに素直であれ！」 ⇒ 信

中庸とは、大調和と無限進化する人間の本質のことであり、仁とは素直な心で、人を愛し、素直な心で愛を実践すること。孔子の言葉でいえば、

「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」
「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」

同じことをイエス・キリストも言っております。聖書の中のゴールデン・ルール（黄金律）

「全て人にせられんと思ふことは、人にもまたそのごとくせよ」（『マタイによる福音書』7章12節, 『ルカによる福音書』6章31節）。

義とは、素直な心で正義を思い、素直な心で正義を貫けということ、

礼とは、素直な心で礼節を思い、素直な心で礼節を実践せよということ

知とは、素直な心で真理を思い、素直な心で真理を広めよということ、

信とは、素直な心で人を信じ、素直な心で自分を信じよということです。

中庸は、偏らないのは勿論のこと、個人が血縁、地縁、人縁、神縁の中で生かされていることに感謝して無限進化していくことが使命付けられていることを自覚して生きなさいという事です。

■中庸とは？

南宋の儒者・朱子は、中庸を「不偏不倚無過不及・不偏不倚過不及無し」と定義します。分り易く云いますと、「偏らず、倚りかからず、過ぎる事無く、不足することなく、バランスよく調和する」と云うことです。

論語を学ぶ皆さんがどうしても知っておかなければいけないことが二つあります。

1. 孔子の本名は、いわゆる、霊名といいますか、セラビムといいます。

孔子は1992年に日本に再誕され、現在24歳ということ。ということは、これからの時代は、日本がリーダーシップをとって、文明を引っ張っていくということになります。

2. 孔子の教えの中から学んだ「人間存在の実相」を掴んでおくという事です。

いわく、「人間の本質は魂である。肉体は魂の乗り船である。魂は神の種を宿した永遠不滅の存在であって、生まれ変わり、死に変わり、すなわち、輪廻転生を繰り返しながら無限に進化していく。」これが本当に、本当の姿であると。

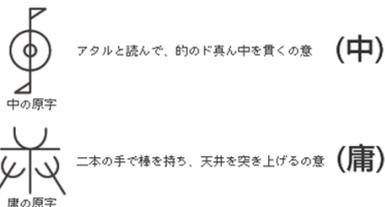
「仁義礼知信」なる五常は同列並列ではありません。孔子は仁あつての義、仁あつての礼、仁あつての知、仁あつての信というように、徳のベースには仁があると考えておりました。

中庸について、孔子の孫の子思がヨハネによる福音書のような難解な書物を残しておりますが死生命有り、富貴天に在りと人智、人力では遺憾ともしがたいものがあることを説いております。つまり、天の意志によるものが大であると言っている。

孔子は孫の子思にだけは真理を詳しく教えたようです。息子の鯉が凡庸でしたから。

中庸とは？

中庸の原字を見るとまた面白い。アタルと読んで、真ん中を意味します。庸の字も面白い。庸の源字は、二本の手で、貴方と私の手で一本の棒を持って、一緒に天に突き上げましょう、一段上を狙うと言う意味です。つまり、調和して無限進化を図るという意味に成ります。



中庸とは、「相生和合、統一止揚」のことなのです。Aか然らずんばBか？俺か然らずんばお前か？と云った「相剋排他」の考えではダメだ！と云っているのです。

分り易く云うと、「貴方と私で一本の棒を持ち、力を合わせて両者を包摂する新たな道を築きましょう！」ということであります。これを「相生和合、統一止揚」と申します

アセンションの時代

今地球人の進化レベルは何処にあるかということ、余り高くはありませんが、小学生レベルなのです。それを再誕の孔子セラビムがリードして中学生レベルに引き上げようとする時代巡りに当たっているのです。この小学生レベルから中学生レベルに高度に認識力が上がることをアセンションと申します。

そう、今はアセンションの時代なのです。そうであるにも拘わらず、ロシアのプーチンは、人類を退化させるようにウクライナを侵略しています。戦争は人類退化の表れなのです。人類は何度アセンションに失敗してきたことでしょうか。第一次世界大戦、第二次世界大戦、そしてロシアのウクライナ侵略による第三次世界大戦と、近年だけでも三度も失敗しています。孔子セラビムは退化を何処で止められるのでしょうか。セラビムは九次元大霊ですから、人類を蘇らせることでしょうか。

ウクライナ戦争は孔子セラビムの2年後に生まれた墨子のネゴシエーションが功を奏して停戦に向うかも知れない。再誕の墨子は現在22歳です。前回、墨子が出た春秋末期の時代、当時の強国宋に乗り込んで直談判で戦争を止めさせています。この様に墨子は世界最強のネゴシエータなのです。

もう一人、セラビム孔子と一緒に正義の守護神ミカエルが再誕されておりますから、ロシア・中国の横暴はこれ以上許されなくなるでしょう。

中国人は、自分達のことを漢民族の子孫と言っておりますが、現在、漢民族の子孫は一人もいません。後漢から魏晋にかけて漢民族は北方の鮮卑族に滅ぼされているのです。その後、金が入り、元が入り、清が入りして混血しておりますから、今の中国人は、純粋な漢民族ではないのです。今の中国は雑種の集まりです。雑種はどんなに軍事力を強化しても、立派な行いなど出来ません。

台湾侵略も雑種たちは、今まで一度も統治した経験が無いのに、内政干渉するなど大見得を切っておりますが何の根拠もありません。台湾は水はけが悪く大陸文化の犯罪者の流刑地だったのです。監獄島だったのです。そういう位置だったのです。

ですから台湾と中国は元々別の国なのです。ところが国共内戦で蒋介石率いる国民党軍が毛沢東率いる共産党軍に敗れて、40万人の乞食部隊を引き連れて台湾に逃げこんだ時から歴史はややこしくなりました。

大陸に、台湾は敵国の口実を与えてしまった。しかも暫くの間、蒋介石は大陸をも代表する国連の常任理事国を努めていたのです。

台湾が本格的に民主化するのは李登輝が総統になってからです。台湾の本省人は、元は日本人なのです。日清戦争以来。ですから台湾が大陸からの侵略にあったときは、日本は救わなければならない。

アメリカはウクライナ戦争の時と同じようにどっちつかずの曖昧な態度を取るでしょう。軍産複合体の利益に繋がりますから。在庫の武器供与は、戦が長引けば長引くほどアメリカは儲かるようになっている。

トランプ以来アメリカファーストになってしまって、世界の警察から手を引いた。何事に付けても、アメリカ優先です。アメリカ本土にアメリカを攻撃されなければ重い腰を上げない。

北朝鮮は、アメリカ全土を射程に入れる ICBM を完成させたから、ワシントンに向けて一発打ち込んでみたらどうでしょうか。ようやくアメリカは目覚めるかも知れません。金儲けのために、見て見ぬ振りをするものではないと。南北戦争以来アメリカは一度も、本土に攻撃を受けたことはないのです。200年間。本土が攻撃されることがどんなに悲惨なものか今のアメリカ人は知らないのです。知らぬ事ほど怖いことは無い。もし理不尽なことでもしてかして、アメリカ大陸の陥没ということにでもなれば、大西洋上にアトランティス大陸が浮上して、そこにも立派な文明があったことが分る。これも歴史の書換えが行われます。

今の文明の他に、この地球上では南極大陸にあったテレマリア文明、インド洋上にあってレムレア文明、太平洋上にあったムー文明、大西洋上にあったアトランティス文明、今の文明の前に分っているだけでも4つの文明があったわけですね。そのどの時代にも、科学者も居れば哲学者もいた。然るにどうして潰れていったのか。

みんな魔王ルシフェルの毒牙に掛かって駄目にしてきました。このルシフェルは魂の組み替えが行われて、人類の世界でなく、は虫類の世界で過ごすことになります。さしずめ、ナメクジがいいのではないのでしょうか。人間の意識を持って、ナメクジの世界で生きるなんて、地獄で暮らすより何千倍も辛いでしょうね。(魂の組み替え・・・人類⇒は虫類)

ナメクジは塩をかけられると溶けてしまいますが、溶けてしまってもしっかりと魂は残っている。考える事も出来る。こうなって、ルシフェルは初めて神の偉大さを知ることになるのではないのでしょうか。

自分は神に匹敵するものだと思っていたがとんでもない間違いだったと気付いたときにルシフェルの魂から100万ボルトのエネルギーが放出されます。これでやっとルシフェルの禊ぎが始まる。禊ぎ払いに何万年掛かるのか知りませんが地球に地獄界が無くなっただけに、人類一人ひとりに自己責任が問われることになる。

何千万年の内に、ルシフェルは何億人を地獄界に引きずり込んだかしりませんが、その地獄霊達を全て天上界に送り返して禊ぎ払いが完了する。地球では、唯物的地獄思想を持っている志位和夫や福島瑞穂らほうんと退化した星に移住することになる。自己責任で。は虫類以下の昆虫の世界かも知れない。この人達は、今世で人間界とは、おさらばです。人間の意識を持ったまま、昆虫の世界で過ごすのは死ぬより辛い。魂は永遠不滅で死ぬことはありませんから。

宇宙は廣大無限、人類の知り得ない世界が山ほど有ります。というより、人類が知り得た宇宙は砂粒一つくらいと考えた方が良いでしょう。神の世界はそれ程広いのです。この廣大無限なオーム宇宙が他にも11個くらいあるというのですから、宇宙を極めるには気が遠くなるばかりです。

九次元大霊

人類で最高の悟りを得たと言われる『九次元大霊』は何処まで知っているのでしょうか。孔子セラピムに聞いてみたいですね。そんなことより授かった使命をしっかり遂せと叱られてしまうかも知れませんが、使命と言えば、論語に学ぶ者として授かっている使命は、孔子セラピムが再誕していることを世に拡げることと、今が文明大転換の時期に遭遇していること、いよいよ宇宙時代が開けてくると言うことを世に拡げる、広めること。

救世主は、平穩無事の時には下生などしません。地球存亡の時にこそ下生して地上を救うものなのです。私が不思議に思うことは九次元大霊が十柱もおいでになって、なぜルシベル一体を鎮められないのかということです。

それ以前に救世主として下生されたデルカンターレ前世は釈迦でした。これが現代名は大川隆法、さえルシベルの手に落ちてしまった。これはどういう事でしょう。

ルシベルの魔力はそんなに強いのでしょうか。不完全ながら自分で宇宙を作れる程の力の持ち主と伺っておりますから、相当の知力、霊力の持ち主だったのでしょうか。かつて、オリオン大戦を仕掛けてエスカリバーという正義の剣を持ったミカエルに封じ込められるまで手下を連れて暴れまくっておりました。神にまで逆らうルシフェルも神の子です。なのに、魂の親にまで逆らうとは何の気になっているのでしょうか。

でも、ルシフェルはナメクジを経験したお蔭で真の神の偉大さはわかった。何万年か反省、悔化を繰り返す内に、また人間界に戻れます。それまで養ってくれた地球大神霊テラ様、ガイア様に感謝するでしょう。

魔王ルシフェルが反省悔化を済ませたとするとどえらい才能を発揮するでしょう。今まで地球人が経験したことがないような素晴らしい事が次々と展開されるでしょう。元はそれほど優れた魂だったのですね、ルシフェルは。

今は、大宇宙戦争といわれるオリオン大戦を仕掛けたことを大反省しております。ルシフェルはこれから大変です。自分が地獄に連れ込んだ何億もの魂を救って、天上界に返さなければいけませんから。何万年も地獄の幹部としてルシフェルに使えた者達は、天上界

に戻ることには抵抗するかも知れませんが、ルシフェルの権限は絶大です。戻ると決めたら必ず戻ります。

独裁下の中国習近平や、ロシアのプーチンに似ております。というより、習近平もプーチンもルシフェルが取り憑いてこうなったのですから。習近平、プーチンを正常に戻すのもルシフェルの責任ということになる。

ルシフェルは一旦決めたら必ずやります。プーチンも習近平もルシフェルの命に順がわざるをえない。これがルシフェルの力です。逆らえばどんなことになるか。神ではないから酷い仕打ちが待っている。唯物的な彼等はそこが分らない。ウクライナ戦争も中国の台湾侵略も案外ルシフェルの働きで収まるかも知れない。

宇宙時代は真理の時代

小学生から中学生レベルに進化すると地球人はどうなるでしょうか。

第1は、考え方のスケールが大きくなります。今までは、血縁レベル、地縁レベル、の捉え方だったのが、オール地球の人縁レベル、広大無限の宇宙神縁レベルへと拡大します。

異星人との交流を通して文明の違いに驚かされます。地球人は、生老病死であの世に帰り、何百年かしたら、また転生して地上に生まれてきますが、ある宇宙人は1000年、2000年と生きっぱなしでふけもしないし、病気もしない。あの世へは自分の自由意志で帰れます。つまり、死生観がまるで違うのです。

第2は、地球人は生きていくために職業について生活費を稼ぎますが、ある宇宙人は食べるものも飲むものも極めて少なく、欲しいものは物質化現象ですべて取り出せますから、物質に対する執着は全くありません。

地球人も宇宙人との交わりを通して物質に対する執着は消えていきます。職業観、仕事観が変わってくるのです。金銭を得るためでなく、使命を果たす事のためにだけ働くことになるのです。地球人のように、与えられた使命は何だっただろうか、と悩む者は誰も居なくなります。

第3は、教育の転換です。地球では、知識を身に付けるだけの文科省の指導要綱に従って、年次教育を受けますが、宇宙時代は、真理教育によって広大無辺の宇宙を極めることがメインテーマになってきます。科学的には、地球より1000年近く進んだ異星人が沢山居ますし、哲学的にも遥かに進んだ聖人もいます。

地球人が他の星人に伝えられるのは愛の思い、親子愛、兄弟愛、男女の愛、地元愛、与える愛の思いでしょう。

地球大神霊テラ様、ガイア様は地球を愛の星にしたかったのです。それから考えれば、プーチンや習近平が如何に間違っているかが分るでしょう。この文明大転換に当たって、神は何故日本に、孔子セラビムを送り込んで使命を託したか。それだけではないのです。

この100年間に高橋信次という名前で、エルランティスを送りこんだ。エル・カンターレという名前で、釈迦、大川隆法を送り込んだ。孔子セラビム3体の九次元霊を日本に送り込みました。

日本人は確りと神の期待に応えなければなりません。オール地球を代表して。ですから、共産党や社民党、立憲民主党のように自分達の主義主張がどうのこうの等などとは言っておれないのです。宇宙時代は神優先なのです。オール地球優先なのです。イデオロギーや党畧などでない、真理優先なのです。

宇宙時代を迎えて真理音痴が一番苦労します。30年間に亘って語り続けてきた論語のエッセンス、神髄を、確り思い出して下さい。仁とは、与える愛のこと。仁有っての義、仁有っての礼、仁有っての知、仁有っての信です。

中庸とは、大調和して無限進化することです。東大を出ようが、京大を出ようが、真理音痴であったら何にもなりません。知識を豊富に知っていることと、真理を豊富に知っていることとは違うのです。

これからの宇宙時代は真理の時代に成るのです。まだ間に合います。あと6年したら孔子セラビムが真理を説き始めますから、それを良く聞いて勉強して下さい。

レムリアルネッサンスの故アマリエさんの説いた真理を学びそびれた人は、アマリエさんの著作は100冊くらいのものでありますから、パソコンで検索して書店に注文するもよし、アマゾンに注文するもよし、今でも手に入ります。

私には孔子の汗の臭いとイエスの汗の臭いが分る気がします。2500年前には孔子のそばで、2000年前にはイエスのそばで修業を積んでいたのかも知れません。孔子はこの度も政治家になって国民をリードするために再誕しました。先程も言いましたように、孔子の霊名はセラビムと言って、神霊としては最上レベルの九次元救世主界から出生しました。

それをなんとなく知っていたのは、弟子の子貢と孫の子思くらいでした。論語を読んで不思議に思うことは、孫の子思の年齢は弟子の子張、子夏、子游と同世代なのに、子思曰くなる文章は1つも出てきません。思うに、論語の最初の編纂は孫の子思が中心となって初めてのものではないかと言うことと、子貢が孔子を聖人として認めていたと思われる文章は子張第19に、

「しゆくそんぶしゆくちゆうじ そし しこうい もつ な な ちゆうじ そし
叔孫武叔仲尼を毀る。子貢曰わく、以て為すこと無かれ。仲尼は毀るべからざる
たにん けんじや きゆうりよう なお こ ちゆうじ じつげつ え こ な
なり。他人の賢者は丘陵なり。猶踰ゆべきなり。仲尼は日月なり。得て踰ゆること無し。
ひとみずか た ほつ いえど そ なん じつげつ やぶ まさ そ りょう し み
人自ら絶たんと欲すと雖も、其れ何ぞ日月を傷らんや。多に其の量を知らざるを見るなり。」

とあることから、子貢は孔子を太陽か月のような偉大な人とみていました。地球には孔子セラビムのような救世主は他に9柱居られます。

エル・ランティ、モーリヤ（モーゼ）、アモール（イエス）、エル・カンターレ（釈迦）、クート・フーミー（ニュートン）、マヌ、マイトレーヤー、ゾロアスター、ゼウス

九次元霊の紹介

地球霊界には最高層に九次元霊（本体）が存在していますが今日はそのうちの10人を神智学系統の名前と合わせてご紹介しましょう。（なお、現在日本に生まれている9次元霊2名は説明から除外しています。）

エル・ランティ：

近年、高橋信次として日本に生まれ、九次元の中でもとりまとめ役でありリーダー格です。3億6500万年前にマゼラン星雲のペーエルダ星から6000万人を引き連れて地球にやってきました。神智学系統ではサナート・クメラと呼ばれている存在です。金星からやってきたと一部でいわれていますが金星を足掛かりに皆さん地球にやってきますのでよろしいかと思えます。

マイトレーヤー：

オリオン星雲から同じ9次元霊のマヌ、カイトロンとともに地球にやってきました。神智学系統ではチャーハンと呼ばれている存在です。

アモール：

13次元銀河・アガチャー意識の分霊。最近ではイエス・キリストとして地上に生まれています。

エル・カンターレ：

最近では仏陀として地上に生まれています。神智学系統ではトスと呼ばれている存在です。

モーリヤ：

最近ではモーゼとして地上に生まれています。神智学系統ではモリヤ（ミラレパ）と呼ばれている存在です。

セラビム：

アトランティスではオシリスとして最近では孔子として地上に生まれています。

マヌ：

「マヌ法典」で知られていますが神智学系統ではサナーカと呼ばれている存在です。

カイトロン：

最近ではニュートンとして地上に生まれています。神智学系統ではクート・フーミー（ヒラリオン）と呼ばれている存在です。

ゾロアスター：

拝火教の教祖。その後マニとして地上に生まれています。神智学系統ではサーナンダナと呼ばれている存在です。

ゼウス：

古代ギリシャ時代に地上に生まれた全知全能のゼウス。
神智学系統ではセラピスと呼ばれている存在です。

孔子セラビムが政界に進んで真っ先に手を付けることは日本を普通の国に戻すこと。

「食を足し兵を足し 民之を信にす」

つまり食糧自給率の向上、国防の強化、道徳教育の充実です。伝統有る日本を普通の国に戻すなんてとても格好が悪いですが、しょうがありません。それまでが異常だったのですから。アメリカの言いなりになってきた事も知らず、左翼に翻弄されて続けてきたのです。正体不明になって。それを孔子セラビムがまともな国に戻す。日本はこれからが本番です。真の力が問われます。大和民族の。

セラビム孔子と、アモールイエスは考え方がそっくりです。二人とも忠誠、与える愛、仁を説きました。

キリスト教のゴールデン・ルール・黄金律に

「汝のせられんと思うことは（人にしてもらいたいと思うことは）、人にもまたその如くせよ（あなたがたも人にしなさい）」（マタイによる福音書7章12節）というのがありますが、セラビム孔子は論語の中で、

「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」

「己立たんと欲して人を立て己達させんと欲して人を達す。」

と述べている。どうしてこうも似ているのでしょうか。二人とも神の子であり、救世主だったことが分ります。エルガンタレ釈迦、現代名大川隆法も救世主だったことは分りますが毛色が一寸違う。知恵を説いた人ですから。

セラビムと、アモール、孔子とイエスの愛は与える愛を説いているけれど、エルガンタレ釈迦、現代名大川隆法の慈悲は、あわれ慈しむ心を言っている。同じ救世主でもそれぞれ個性が違うのですね。

私の実家は浄土真宗ですが、私はキリスト教の洗礼を受け、今はルーテル協会のキリスト教徒です。キリスト教義は仏教ほど複雑ではありませんが説くところの本質は、与えっぱなしの愛、仁と同じ意味です。

仁有っての義、仁有っての礼、仁有っての知、仁有っての信なのです。仁有ってこそその知恵なのです。

仁に根ざさない知恵などは利己知にすぎません。エル・カンターレ釈迦、大川隆法はこの度救世の使命を負って下りてきたのですが、利己知にはまって魔王ルシフェルに引っかけられてしまいました。それで立て直しのためにセラビム孔子が下生して、バックアップに、アモールイエスががっちりとつきましたから、今度は大丈夫でしょう。

論語の中の孔子の教えを教養として学ぶのは間違っています。教えの中から真理を紡ぎ出し、そのエッセンスに従って生きて下さい。

セラビム孔子のスケールの大きさは善悪を二元論で捉えず五元論で捉えるところにあります。以下のように善悪二元論に分けるのではなくて孔子は五元論でわけていました。

善でも悪でもない領域、そこまで含めると7割なのですが、思考の対象に入れていました。イエスもそうです。他の聖者は善悪二元論で捉えます。

最善の領域

どちらかに属しない 美の領域

善でも悪でもない領域

どちらかと言えば悪の領域

最悪の領域

エルガンタレ釈迦大川隆法もそうでした。善か悪かで狭く捉えるから魔王ルシフェルの手に落ちたのかも知れません。

私も今年で75歳の後期高齢者に成りました。孔子セラビムのように、「70にして心の欲するところに従えども法を越えず」になりたいと思うのですが、未だに時々ポカをやっております。後6年したら、孔子は30にして立つですから、丁度セラビムは30歳になります。

そしていよいよ正法を説き始めますから、万人が真理を身に付けられるチャンスがあります。楽しみにして下さい。

以上で話しを終りにしまして、後は質疑応答にお答えします。

質疑応答

Q1:論語を学び始めたばかりで、的外れになるかも知れませんが、論語を長年学ばれて、キリスト教に入信されているとのことですが、本日の話しも、歴史観や、今も国際情勢、古代文明の話し、色々と宗教を学ばれた上でご自分の考えを、今持ってられるのだと思います。私は初めてお話しを聞いたのです。深く理解出来ていませんが、色々考え方があの中で、ご自分の考えをどのように位置づけられているのか具体的にお話しを頂ければと思います。

高野:第一に重要なことは、皆忘れているのだけれど文科省の教育要領に従って知識を身に付けるための教育に熱心になっているけれど真理教育というようなものが日本では為されるところがないのです。之は悲しいことだし、残念なことなのですが、之は自分で学ぶ以外にはありません。あっちこっちあたりながら。

私は何に当たったかという最初は宗教関係でした。真理を説くのは宗教だと思ってあるときにそうでもないと思ったのは、聖書は、ミッションスクールでしたから学生時代は当たっていましたが、論語を読んで孔子の説くところを聞いてから、この男はなんなのだとあまりに理想に過ぎていて自分でハッとあって、もう一回聖書を読み、論語を読んできたなら個性は別だけれど、イエスみたいに磔にあったようなこともなく、孔子は天寿を全うします。

個性は違うが考え方がそっくりだなあと思ったことから、自分で論語とその他中国の古典は殆ど読んでいますが後は聖書だったと自分では思います。あなたもそこら辺から入ったら良いと思います。

Q2:基本的なことなのですが、先生は学ぶことは二つあると仰ったんですが、一つは孔子の本名は、霊名といいますかセラピム、もう一つは何でしたか。

高野:「人間存在の実相」を掴んでおくという事です。

Q3:先生は宇宙から見てお話しされて、中々理解出来ないのです。それが神として現れてくるのです。論語とか仏教では人としての積み上げで悟っていく過程があって修業というか悟りに至るのですが、積み上げていく目線というのを勉強の道筋で持っていると思います。地球レベル、地縁とかいうレベルでなく、宇宙レベルから見た話をされましたが、我々はそういう目線という所に、話しを聞いてそうだと思います。逆に積み上げて悟りに至るような道筋についてはどのようにお考えでしょうか

高野：私はそれでいいと思います。顔かたちが皆違うように一人ひとり個性が違う。授かった使命も一人ひとり違う。魂の進化度も違う。それを十把一絡げにこうせよというのでなくて、一つ一つ積み上げ方式で悟りを開いていこうと思う方はそういう風になされば良いのです。そうでなくて、これだけの広大無限の宇宙があるのだから、そこの目から地球というものを眺めるときにどうなるかと言うのも一つのやり方だし、私はどちらも良いと思います。